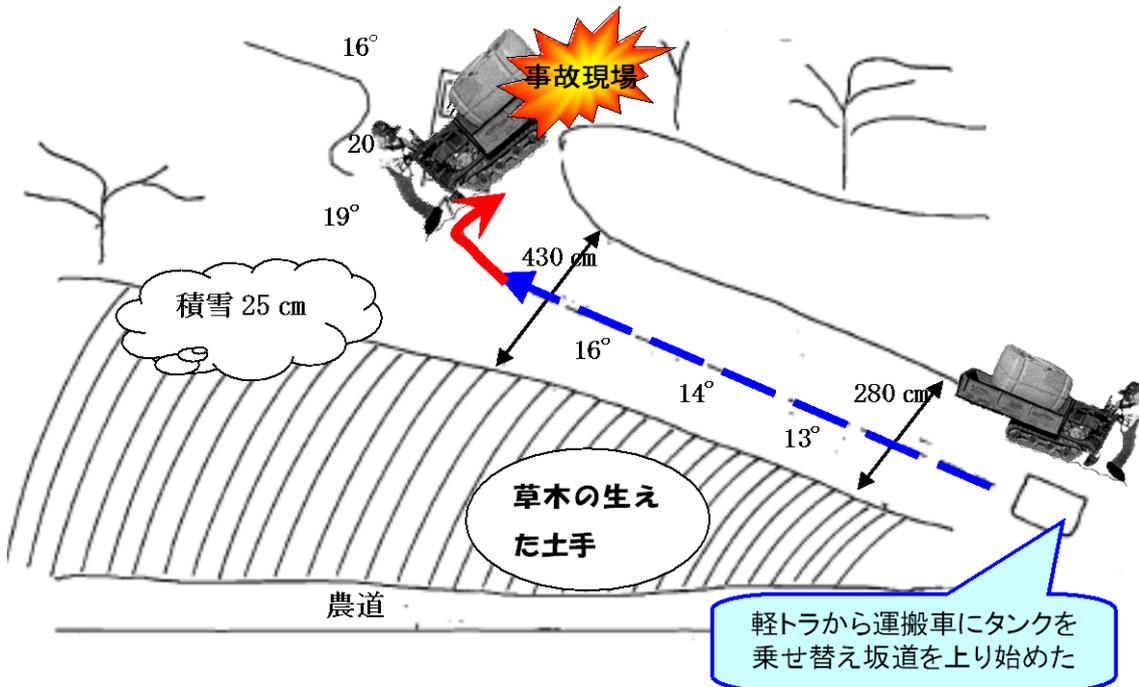


持ち込んでいるが、車両が乗り入れできないときは、車両が入れるギリギリまでポリタンクを運び、そのあと運搬車に積み替えて目的地まで水を運んでいた。



事故発生日の2月下旬の当日は、降雪はなかったが気温は氷点下と非常に寒く、園地内には、約 25 cmの残雪があった。除染に必要な水を確保するため、容量 500L のポリタンクに水 200L ほど入れ、軽トラックで運び、仲間と 2 人でポリタンクを運搬車に積み替え、園地内の約 40mの坂道（斜度：15～16 度）を上っていった。

高圧洗浄機のホースの長さが足りないため、除染する樹体に運搬車をなるべく近づけようと、更に約 19～20 度の傾斜地を上ろうとしたが、雪と傾斜のためキャタビラが空転しはじめた。200L の水の入ったタンクごと運搬車が自分の方にスベリ落ちてきては大変だと思い、慌てて右手でレバーを思いっきり引いてクラッチを切った時に、右肩に鋭い痛みが走った。



当日、右肩の痛みは全く引かなかったが、自分が抜けると 3 人 1 組での除染作業に影響がでると思い、誰にも怪我をしたことを告げずに、痛みを堪えながら夕方 4 時頃まで除染作業を続けた。交代で高圧洗浄係を行うことになっていたため、右腕は痛くて上下に動かせなかったが、左手を中心にトリガランスでの高圧洗浄作業も数回行った。

夕方の作業終了近くになってようやく、仲間に朝一番に右肩を怪我したことを打ち明け、怪我の翌日に整形外科を受診し、最終的にはMR I 撮影により、右肩腱断裂しているのが判明し、受傷後 17 日目に手術をうけ、約 20 日間入院した。

* 事故原因

この事故は、急激な体の動きによって引き起こされた腱の断裂と思われ、除染作業特有のものではなく、いつでも

・誰にでも起こりえる可能性のあるものである。事故の起きた日は、当日の降雪こそなかったものの、園地内に雪が 25 cmほど残っており、気温も氷点下で、普段よりも体が縮こまって筋肉や腱が硬くなっていた可能性が高い。怪我をしないよう、作業前に体操やストレッチなどを行い、筋肉や腱をあたためることも予防につながると思われる。

②運搬車がスリップしたので、クラッチを切るため右手で思いきり引いた。瞬間、右肩がギクツとなった。



①ハーベスターを改造して作った運搬車に、除染用の水を入れたタンク(500Lに約200L入れて)を積んでいた

通常農作業なら極寒の日に園地での作業は行わないが、「春までに柿の木の除染を終わらせなければならない。」と地区のみんなが厳しい環境条件下で除染作業をやらざるを得なかった背景がうかがえる。

事故の起きた柿畑は山の斜面にあり、対向車がきてもすれ違えない道幅の農道を進み、農道から柿の木が植えられている園地までは、傾斜が約 13~16 度ある坂を上る必要があった。平らな坂ではなくデコボコしており、斜度も一定ではなく、事故当日は雪が 25 cmほど積っていて、道幅や斜面の様子は全く見えない状況だったと推測する。坂を上って園地に入り、もっと樹体に近づくため、もう少し坂を上ろうとして運搬機のキャタピラが雪で空転し始めたため、運搬車がタンクごと自分の方向にひっくり返っては大変だと思い、あわてて右手でクラッチレバーを操作した。(キャタピラが空転し始めた斜面の斜度は約 20 度)

また、この運搬車はハーベスターを改造して作られたもので、荷台下全体にキャタピラがなく、荷台に高さ約 80 cm (200L の水入り) のポリタンクを乗せれば、重心がずれて、より不安定な状態になっていた可能性も十分考えられる。

